

A-3 指導法や評価の工夫改善

1 教科等の関連を意識した指導法の工夫改善について

(1) つけたい力と各教科の育てたい資質・能力を関連付け、明確に位置づける。

本校では、児童の実態に応じて、つけたい力と各教科の育てたい資質・能力を関連付け、明確に位置づけた。また、低中高別にどのような資質・能力を身につけなければならないのかを系統立てて位置づけた。総合的な学習の時間だけではなく、各教科の指導においても、つけたい力と育てたい資質・能力を意識しながら単元や本時レベルにおけるねらいを明確にしてきた。

(2) 教科で育てた資質・能力を生かす場を設定する。

総合的な学習の時間において、各教科で育てた資質・能力を生かす場を設定する。単元構成では、毎時ごとに教師の支援として、各教科で育てた資質・能力を生かして問題を解決する場を設定した。机間巡視による声かけや、学習形態の工夫、ノート等による赤ペン指導など、資質・能力を生かしているかという観点で工夫した。

2 児童一人一人の意欲を促し、次の指導に生きる評価の在り方や方法の工夫改善について

(1) 評価観点・評価規準を明確にして評価を実施する

①評価観点の明確化について

総合的な学習の時間における毎時の評価観点を明確化する。つけたい力と各教科の育てたい資質・能力を単元を計画する段階で明記する。単元計画では、単元の最初の場面では「見つける力」を中心とし、「調べて考える力」を課題解決学習の中心に位置づける。学習の最後には、「伝える力」を生かす場面を明記し、学習のまとめとする。

②評価規準の明確化について

総合的な学習の時間における毎時の評価規準を明確化する。つけたい力と各教科の育てたい資質・能力を単元を計画する段階で明記する。また、単元レベルや本時レベルでどのような力がつくよいか具体的な姿を明記する。

(2) 評価方法を工夫する

①自己の学びをふりかえり、書く場を設定する

授業の学習の最後には必ず振り返りをする場を設定する。振り返る観点は、学習で分かったこと、まだ分からないことと、どのような学習の方法がよかったか？次回の見通しを持ったふりかえりをさせる。

②単元終末で自己評価をする場を設定する

学習の最初にはその学習に対しての達成度を提示し、子ども自身でどのような姿になればよいのかの見通しを持たせる。その姿に近づけたかどうかを振り返る場を設ける。

(3) 評価結果を次の指導に生かす工夫をする

①評価結果に基づいて単元計画等の微調整を実施する

総合的な学習は基本的には一人ひとりが自分で問題を解決するものであるが、場合によってはグループであったり一斉授業になる場合もある。評価結果を基に、学習形態の変更を行う。また、育てたい資質・能力の目標の達成度が低かった場合などは、同じ資質・能力を生かす場面をもう一度設定し、繰り返し学習を行う。